



多摩ブルー・グリーン倶楽部

平成27年度例会・事業報告書

日時 平成27年12月16日(水) 午後2時～

会場 パレスホテル立川 4階ローズルーム



多摩ブルー・グリーン倶楽部 平成 27 年度例会・事業報告

目 次

1. 例会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

多摩ブルー・グリーン倶楽部平成 27 年度例会・事業報告

多摩ブルー・グリーン倶楽部では、平成 27 年度例会・事業を以下のとおり行いました。

1. 例会報告

(1) 第 19 回例会

① 日 時 平成 27 年 4 月 16 日 (木) 15 : 00 ~

② 場 所 たましん事業支援センター (Win センター)

③ 内 容 平成 27 年度事業計画の概要

■第一部講演

第 12 回多摩ブルー・グリーン賞 最優秀賞受賞企業プレゼンテーション

多摩ブルー賞最優秀賞 株式会社 未来樹脂

多摩グリーン賞最優秀賞 社会福祉法人 にじの会

■第二部講演

「社員にもお客様にも価値ある会社」

～社員のモチベーションを高める透明性と納得性のある人事制度～

株式会社 日本レーザー 代表取締役社長 近藤 宣之氏

■情報交換会

(2) 第 20 回例会

① 日 時 平成 27 年 9 月 16 日 (水) 13:00 ~

② 場 所 東京東信用金庫 両国本部 (東京都墨田区)

③ 内 容 ■講演

「産学官金連携による『江戸っ子一号』開発」

東京東信用金庫お客様サポート部 東京海洋大学客員教授 桂川 正巳氏

■第一部マッチング会

会員企業 10 社とひがしん若手経営者の会ラパン 10 社とのマッチング会を実施

■情報交換会

■第二部大相撲 9 月場所 観戦

第19回例会報告

－ 第1部講演－

第12回多摩ブルー・グリーン賞 最優秀賞受賞企業プレゼンテーション

例会第1部では、第12回多摩ブルー・グリーン賞の各部門において最優秀賞を受賞された2社の方に、受賞内容のお話をいただくプレゼンテーションを行いました。

多摩ブルー賞最優秀賞 株式会社 未来樹脂

もともと機械製造業だった武蔵野機工は、2000年の容器リサイクル法施行とともに、再生プラスチックの活用・開発をスタートし、2008年「株式会社未来樹脂」に社名変更しました。現在は、リサイクルしたプラスチック材料を原料に、製品の企画・製造・販売を行っています。

家庭で不要になったプラスチックは、再生処理事業者がリサイクルして造粒品にするのですが、これには様々な種類のプラスチックが混合し、品質的に用途は限られています。弊社ではこの造粒品を買い取り、品質や強度を上げるアップグレードリサイクルを行い、材料化しています。顧客のニーズに合わせて材料を一から作り、製品化までを引き受けられるのが弊社の強みです。

製品の具体例としては、建築現場で使われる土木用プラスチック製品のほか、駐車場の車止めに埋め込まれた反射板、引っ越し用の床養生シートなどがあります。自動車部品を輸送するための専用トレーは、ヨーロッパの各自動車メーカーに納品して、非常に高い評価をいただいています。特殊な部品の形に合わせて作られ、連結したり重ねてスタッキングできる形状で、輸送量が2倍に増え、前後の輸送行程も簡略にすることができました。

今後は、顧客企業から使用済みプラスチック製品を回収し、それをまた原料として材料化し新たな製品にする、そんな「環境製造業」を構想しています。循環型ビジネスはまだまだ発展途上で、アイデアとやり方次第でいくらでも拡大する市場です。環境製造業のトップを目指して、これからも邁進していきます。



多摩グリーン賞最優秀賞 社会福祉法人 にじの会

社会福祉法人にじの会は、障害者の親たちと養護学校の教員が中心となり、2001年10月に創設された知的障害者支援施設です。障害をもつ方のための生活施設や雇用の場など、地域の障害者のニーズにその都度細かく応えながら、必要なサービスを提供していく形で事業展開してきました。

就労支援事業「ハーモニー」は、一部の利用者と労働契約を結び、社会保険や退職金制度にも入ってもらうという、限りなく企業に近い福祉事業です。福祉の枠にとどまらず、利益追求、販路拡大、販売促進を目指して、品質も他に負けないものを作ろうと努力しています。ワークショップハーモニーでは、パン、豆腐、油揚げ、惣菜、ソーセージなどを生産していますが、油揚げや豆腐は、国産大豆を使用、国産の米油にもこだわり、一枚ずつ手作業で揚げています。2012年に立ち上げたイタリアンレストランでは、ピッツアは必ず利用者に作ってもらっています。本場のナポリピッツアを職人に教えてもらい、日本では3カ所しか食べられないイタリアのできたてチーズを使用している本格的なものです。

これまでは品質を向上させ売上を上げるということに注力してきましたが、今後は、地域の課題にどういふうに貢献できるか、どう役に立てるかを考えることが重要だと思っています。最近では、地域の方から「気軽に年寄りが集まれる場所がない」と聞いて、ハーモニーのスペースを利用しやすいように宣伝しています。これからも地域の方々の連携を意識しながら事業展開していきたいと思っています。



第19回例会報告

— 第2部講演 —

『社員にもお客様にも価値ある会社』

(社員のモチベーションを高める透明性と納得性のある人事制度)

例会第2部では、『社員にもお客様にも価値ある会社』(社員のモチベーションを高める透明性と納得性のある人事制度)をテーマに、株式会社日本レーザー 代表取締役社長の近藤 宣之氏にお話をいただきました。

講演内容

経営は大企業と中小企業では全くやり方が違うし、ビジネスモデルも100社あれば100通りあります。こういう変わった会社もあるんだ、というひとつのケースとしてお話しします。

私は、世間で言うところの経営再建屋でした。大学卒業後に入った日本電子は当時3000名の社員がおり、経営再建のためリストラが行われました。その後渡ったアメリカでも、帰って来た日本の事業所でもまたリストラをし……と、人を人とも思わないような状況の中で、何百人何千人という人たちを切ってきた経験があるからこそ、いま絶対にそういう経営をしないと誓っています。

“会社”をどう定義するか。「会社の目的は？」を聞くと、新しい事業を始める、利益を上げるという答えが多いのですが、私は「社員雇用」が会社の唯一の目的だと思っています。雇用されることによって人は働く喜び、人生の喜びを得ます。そのために会社があり、仕事を通じて成長するような仕組み、チャレンジする風土が必要です。

「人を大切にせる経営」というと、社員を徹底的に優しくしてヨイショすればいい、と考えがちです。実際には、まずは社員が頑張ればきちんと利益が上がる、そういう会社の内側の経営戦略とビジネスモデルを構築し、強い企業を作ることが大事です。



弊社のテーマのひとつは、女性の活躍とマイノリティ採用、ダイバーシティ採用です。女性の3割は管理職を目標に、身障者や外国人も雇用、高齢者も80歳までを目標に再雇用して働いてもらいます。全員が4番バッターというわけではない、それは社会と一緒にです。「生涯雇用」という考え方は昔ながらの日本的経営の手法で、辞めさせないことによって人が育つという利点があります。

弊社は新卒採用での退職者はゼロ、離職率も10年以上ゼロです。これには、ただ雇うだけではなく、社員が大切にされているという実感がないとダメです。よく珍しいと言われますが、私は自ら塾を開いて英語とビジネスの社員教育を行っています。正社員はTOEIC500点以上が条件で、正社員になりたかったらパートも嘱託もみな英語を勉強します。企業理念は、創業者自身が教師になることで「こういう思いで会社を作った」と教えられる。教育を外部に丸投げしては絶対にダメです。

フェアな待遇で、社員に不満を抱かせない必要もあります。公平性と透明性を確保するため、毎月600件ある個々の担当者の受注と粗利を全てグラフにしてネット上に公開しています。目に見える成果を目に見えない貢献度に応じて配分しているので文句は出ません。成果主義もここまでやると効果があると思います。

経営者はいろいろなトラブルに遭遇しますが、それは自分が成長するチャンスです。トラブルが起きたらまず感謝、周囲が悪いのではない、自分が責任を負う経営をすべきです。私は「Be a Driver!」というキャッチコピーが好きなのですが、自分でハンドルやアクセルを握って、自己責任で、どこに向かうのかは自分で決める……その方がずっと楽しいのではないのでしょうか。

近藤 宣之 氏 [株式会社日本レーザー 代表取締役社長]

1944年東京生まれ。慶應義塾大学工学部卒業後、日本電子株式会社に入社。アメリカ法人支配人、取締役を経て、株式会社日本レーザー代表取締役社長に就任。役員と社員の持株会などから構成されるJLCホールディングを2007年に設立、MEBOを実施し日本電子から独立した。日本レーザーは、経済産業省「ダイバーシティ経営企業100選」「おもてなし経営企業選」「がんばる中小企業300社」入選、東京都ワークライフバランス企業に認定されるなど、数多くの受賞がある。

講師
プロフィール
Lecturer Profile

第20回例会報告

－ 講演 －

産学官金連携による「江戸っ子1号」開発

例会講演では、『産学官金連携による「江戸っ子1号」開発』をテーマに、東京東信用金庫お客様サポート部所属で東京海洋大学 客員教授である桂川 正巳 氏にお話をいただきました。

講演内容

深海探査ロボット「江戸っ子1号」を作るというプロジェクトが発足したのは、6年前、私が芝浦工業大学のコーディネーターをしていたときです。葛飾区の杉野ゴム化学工業所の杉野社長が、下町の中小企業の活性化を目指して、東京東信用金庫に話をもちこんでこられました。東京海洋大と東京東信用金庫、芝浦工業大学は産学連携協定を結んでおり、これは学生たちの勉強にもなると考え、協同製作をスタートしました。大学生が卒論や修論を書きながら設計し、それに中小企業がいつも使用している技術をプラスアルファして作り上げられたのが「江戸っ子1号」です。

基本的に「江戸っ子1号」は単純な装置です。ガラス球の中にカメラやライトを入れ、枠に入れて錘をつけて下まで沈めます。下まで沈むとビデオ撮影や生物採取をし、今度は船の上から信号を出し、錘を切り離して風船のように浮かべます。浮いた状態で写真を撮り、浮かび上がったからGPSで場所を調べて衛星通信で船に連絡し、拾いに行きます。

参加企業は全部で6社です。採泥器と海中の電波通信を担当した杉野ゴム化学工業所、通信球と浮体担当の浜野製作所、ライトはツクモ電子工業、ビデオシステムと切り離し装置担当のパール技研、ガラス器カバーを製作したバキュームモールド工業、最後にガラス球を製作した岡本硝子が参加しました。各企業と研究室とがペアになってユニットを作り、開発を進めました。

各ユニットはバラバラの設計ですが、それをまとめて全体のバランスを考えたのが、海洋研究開発機構(JAMSTEC)と東京海洋大学です。技術指導と実験施設の提供を行うと同時に、毎月1回、東京東信用金庫の会議室に集まり、技術全体会議を開きました。社長から学生まで、



最終的には45名ほどで、議論を重ねました。

江戸っ子1号は、2013年11月、日本海溝8000m弱の海中の三次元ビデオ撮影に世界で初めて成功しました。2015年2月からは「江戸っ子1号プロジェクト事業化グループ」を結成し、本格的な販売に入りました。このグループは、岡本硝子の海洋特機事業部を中心に営業・製造販売・開発を行い、各企業は連携企業として開発と製造の契約を結びました。また海洋大学、芝浦工業大学とJAMSTEC、信用金庫が、技術支援や講演セミナーやメディア対応、外部対応での支援を行いました。

このプロジェクトで、関東財務局からは顕彰を、各新聞社からも賞をいただきました。海洋立国推進功労者、産学連携功労者表彰では内閣総理大臣賞を2ついただき、プロジェクトとして評価していただきました。そして何より、このプロジェクトによって、海洋に対して一般の関心を高められたこと、多くの企業に海洋開発への興味をもってもらったこと、反対にJAMSTECも多くの企業を知ることができたことが収穫でした。また、信用金庫がハブとなり、産学・異業種連携のひとつの実績を示せたこと、その結果事業化が実際に進み始めたということも、非常に大きな成果だと思っています。

第20回例会報告

『マッチング会』

第20回例会では、東京東信用金庫主催の次世代を担う若手経営者の会「ひがしん若手経営者の会ラパン」との相互の理解を深めること、新たな連携の創造などを目的としたマッチング会を行いました。

マッチング会では、初めての試みとして、事前にPRの申し出のあった多摩ブルー・グリーン倶楽部会員とひがしん若手経営者の会ラパン会員の企業各10社による、事業内容・技術等の紹介や、今後の技術連携や異業種連携などについて、会場を2つに分けプレゼンテーションを行いました。

優れた技術・製品や、特徴あるビジネスモデルに触れることにより、参加企業の特色やノウハウについてより理解を深める機会となりました。



マッチング会の後は、情報交換会を実施し、参加者同士による活発な情報交換会が行われました。また、東京東信用金庫様のご厚意により、「大相撲九月場所」の観戦にご招待いただき、盛況のうちに閉会を迎えることができました。



- 参加者の声
- 自社としてこれから展開したい分野の企業と出会えたので、早速連絡を取りたいと思います。
 - 普段なかなか巡り会えない企業を知ることができました。
 - 新しいビジネスモデルを実践している企業を知り、自社の参考としたい。
 - 次回はぜひ多摩に来ていただいて、マッチング会を開催してほしい。「ラパン」のみなさまのビジネス内容や姿勢がとても勉強になりました。
 - 企業の話聞くことであらためて自社の事業を見なおしたり、未来を展望したりする良い機会になりました。

■多摩ブルー・グリーン倶楽部PR実施企業(10社)

- 株式会社志成データム
(第10回 多摩ブルー賞 最優秀賞)
- スピーダーレンタル株式会社
(第10回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 一般社団法人 調布アイランド
(第10回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 京西テクノス株式会社
(第4回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 株式会社ヤシマ
(第2回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 株式会社ウォールナット
(第12回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- エー・アンド・エー株式会社
(第9回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 合同会社いとへん
(第12回 多摩グリーン賞 特別賞)
- 株式会社 キャリア・맘
(第2回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- お弁当テレビ株式会社
(第8回 多摩グリーン賞 優秀賞)

■ひがしん若手経営者の会ラパンPR実施企業(10社)

- 荻野工業株式会社
- 久米繊維工業株式会社
- メック株式会社
- 日本橋梁工業株式会社
- バキュームモールド工業株式会社
- 株式会社浜野製作所
- 岡本硝子株式会社
- 株式会社プラント
- 株式会社ワーク衡業
- 株式会社パール技研

2. 事業報告

(1) 東北視察ツアー

震災復興に向けて取り組む地元中小企業や団体を視察しました。

震災後2回目となる東北視察ツアーでは、4年を経過した被災地の視察や復興と事業再生に取り組む企業・団体の方々の話を直接うかがうなど、生の現状を肌で感じることができました。会員企業各社が今後の経営や支援の在り方などを考える機会となりました。

実施日：平成27年10月21日（水）～10月22日（木）（1泊2日）

訪問先：宮城県仙台市、石巻市、女川町

協 力：石巻信用金庫



(2) ボランティア

会員企業の相互連携による社会貢献活動として、八王子市川町にある都有地の森林保全活動を実施しました。当日は雨の中、参加者が力を合わせ散策路作りに励みました。

実施日：平成27年11月14日（土）

内 容：森林保全活動（下草刈り・間伐作業）

場 所：高尾の森自然学校

協 力：一般財団法人セブン-イレブン記念財団



(3) 多摩未来奨学金

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩（以下、ネットワーク多摩）が主催する「多摩未来奨学金」の寄附金を、会員企業より募り「多摩ブルー・グリーン倶楽部」名義で寄附を実施しました。

概要：企業等から拠出された寄附金を原資とし、文部科学省による補助制度を活用したネットワーク多摩加盟大学・短期大学の学生を対象とする奨学金制度。現場体験などの実践的なカリキュラムを通じて、多摩地域活性化に資する人材育成を行う。

目的：本事業により多摩地域の活性化に資する人材を育成することで、地域中小企業の活性化と地域経済の振興に繋げる。

「多摩ブルー・グリーン倶楽部」名義で寄附することで、本倶楽部名が奨学金案内や、ネットワーク多摩および各大学・短大のHPに協賛先として掲載され、本倶楽部のバリューアップとなる。また、寄付金を拠出した会員企業についても同様である。

寄付実施：9社 125万円（平成27年11月末）

交付式：多摩未来奨学生との交付式を実施しました。

実施日：平成27年12月6日（日）

会場：創価大学ディスカバリーホール



以上